

「土砂災害のこわさ」

三重県 鈴鹿市立加佐登小学校 5年

ぼくは二年前に起きた、あたみの土砂災害がこわくて、その日からハザードマップを見て、家の近くに土砂災害けいかい区域がないか調べたりしました。ぼくの家で土砂災害の危険があるようなところはないけれど、ぼくの知っているとなりの町の名前は出ていたので驚きました。ずっと前から土砂災害は起こっていたのだろうけど、ぼくが気になった二年前からは毎年どこかで台風や大雨によって土砂が流れたというニュースを目にします。どうして土砂災害がなくなるのか、考えてみました。

一つ目は砂防ダムについて考えました。砂防ダムは水を貯めるダムではなく、土石流などを下流の街に流れないようにするためのダムです。それは山の中にあることが多く、本物を見ることはむずかしそうです。でも、ぼくの住んでいる三重県に朝明砂防学習ゾーンという砂防ダムのもけいがあるところがあるそうです。夏休みに見に行きたかったのですが、暑くていけなかったので、すずしくなったら行ってみたいです。ダムのしくみや働きを学びたいです。

二つ目は、土砂災害を知るということです。となり町に「土砂災害警戒区域」と書かれているかんばんを見つけた時、ぼくは土砂災害のことが気になるから、こんな所も危ないんだと頭からはなれませんでした。でも意識していなかったら、かんばんを見ても特に何とも思わないと思います。だから少しの意識で変わってくるのがたくさんあると考えます。

最近では、線状こう水帯という予報も示されるようになりました。その言葉を聞くと災害が起きないかと心配になります。もしぼくの住んでいる地域で、この予報を見たら、避難指示が出ないか確認したくなります。早めの避難が必要なのは分かっているけど、災害が起こるかもしれないというリスクを知っておくことで行動が変わってくるんじゃないかと思います。

あたみの土砂災害が起こった場所は二年経過した今年、けいかい区域が一部かいじょになったそうです。それまでは立ち入り禁止でした。だから今、道路を整備し、電気や水道などの生活にかかせないものも復旧し、人が住めるようにしていると聞きました。土砂が流れると一瞬で街をめちゃくちゃにしてしまうのに、元に戻そうとするには何年もかかってしまいます。元には戻せないものもあります。土砂災害が起こったら、それで終わりじゃないんです。その後もしばらく不便な生活が続くんです。もしかしたら、もう二度と家に帰ることができない人も出てくるかもしれません。そんなことを考えると心が痛みます。自分の住んでいる所は大丈夫と他人事に思えるかもしれませんが、いつ何があるかわかりません。だから災害対策をしておくことが大切だと思います。

ぼくは今まで、土砂災害が起きることにしか目を向けてこなかったけど、今回は土砂災害が起きた二年後でも、まだまだ大変な思いをしている人がいることに気がつきました。ぼくの調べたことや感じたことを周りの人に伝えて、みんなで土砂災害への意識が高まって、安全に住めるようにしていきたいと思います。